

ラーモス  
じゅうち  
移住地

# ナガサキ誓いの灯初めて海外へ

## 小川さんの平和資料館に分灯

### 120周年記念、世界平和願う

世界平和の願いを象徴する「ナガサキ誓いの灯」をブラジルに――日伯外交樹立120周年を記念して、サンタカタリーナ州ラーモス移住地の草分け、長崎の被爆者の故・小川和己さんが私財を投じて2010年に建設した平和の鐘公園にある「平和資料館」へ、長崎を最後の被爆地とする「ナガサキ誓いの灯」を分灯することになった。9日には聖市内ホテルで「被爆報告会」と記者会見、12日には現地ラーモス移住地で式典が行われる。この様子はNHK長崎放送局が日伯密着同行取材して放送するという。

「ブラジル・日本平和・日伯友好議員連盟（麻生太郎会長）も後援に入った」が主体となり、一で協力を呼びかけ、地元

## 長崎の聖火 ブラジルへ 被爆者ゆかりの公園に分灯



「ナガサキ誓いの灯」の下、ブラジルへ運ぶ大使として種火を託される井上祐見さん(左)と中嶋代表

11月30日 月曜日 15版 社会 26

長崎市の平和公園内にあって毎月9日にとされる、5輪の平和の聖火(左)「小川さんは11年に移住

11月30日付長崎新聞。分灯式で種火を受け取った井上祐見(左)と中嶋代表

「ソウ・ジャポネーザ」などの移民歌で「コロニアおなじみの歌手の井上祐見が「分灯の使者」として14回目の来伯、息子「笠戸丸」も「やす」も初めて同行する。日本側の分灯式典は11月29日に長崎で、12月1日には河村建夫友好議連幹事長らも出席して在京ブラジル総領事館(マルコ・ファラー総領事)で開催済み。井上祐見のマナー

「ソウ・ジャポネーザ」などの移民歌で「コロニアおなじみの歌手の井上祐見が「分灯の使者」として14回目の来伯、息子「笠戸丸」も「やす」も初めて同行する。日本側の分灯式典は11月29日に長崎で、12月1日には河村建夫友好議連幹事長らも出席して在京ブラジル総領事館(マルコ・ファラー総領事)で開催済み。井上祐見のマナー

「分灯する活動を決定しました」と趣意書に動機が説明されている。旅客機に「火」を載せることは大変困難であり、当初はシウマ大統領が訪日する際に専用機で運んでもらえないかと交渉するなどの苦労もあったが、灯を電気に変換してランタンとして手荷物で運ぶことになった。

またバリ経由で来る予定だったため、突然の同時多発テロの発生で空港警備の厳重化が危ぶまれたが、中嶋代表は「平和の灯がテロに屈する形では予定を変更したくない」とあえてバリ経由のまま来伯する。

中止されたとの故事から、聖火は「平和の象徴」とされ、人類最後の被爆地長崎に83年、その聖火が贈られた。国内では8カ所に分灯されたが、海外は今回が初めて。

# 「ナガサキ誓いの灯」 聖市到着

## 「平和への想い伝えたい」



「分灯の使者」手前から笠戸丸ともやすくん、「ナガサキ誓いの灯」を持つ歌手の井上祐見、中嶋代表

「なんとか無事に到着しました」。日伯外交120周年を記念し、世界平和の願いを象徴する「ナガサキ誓いの灯」が9

日朝、分灯の使者3人によって当地に運ばれ、午後には聖市内のブルーリリーホテルで「種火到着報告会」と

記者会見が行われた。この事業を主宰する「ブラジル・日本平和の絆交流会」の中嶋年張代表は、

「灯」の入ったランタンに視線をやった。

式典ではまず、中嶋代表が運搬方法を説明した。長崎の平和公園の「誓いの火」から3日かかりで、温度差を利用して蓄電する装置を使って乾電池に電気エネルギーとして移し替え、当地に

来てからガムの包み紙を細長く切って電池の両端に繋いで発火させて「火」に戻した。梅田邦夫大使や田上富久長崎市長のメッセージも披露され、式典に出席した中前隆博在聖総領事も「日本の平和に関する誓いが、ブラジルに伝わることを非常に嬉しく思います」と祝辞をのべた。

記者会見には日本メ

ディアの特派員も詰めかけ、次々に質問が飛んだ。「誓いの灯」をどう活用するののかとの質問に、ラーモス移住地が所在するフレイ・ロジェリロ市の岩崎秀樹副市長は「州政府にも働きかけ、灯をもし続けることで、子どもや市民への

平和学習をさらに拡大させたい」と、現地の原爆被爆者と子孫の会の会長代行・小川直樹さんは「この火は絶対に消したらいけない。すごい責任を感じる。世界は戦争、テロ、暴力、核兵器の問題に直面している。この灯を得たことで、さら

に平和を訴えていきたい」との意気込みを述べた。「分灯の使者」井上祐見(歌手)は、火が贈られる平和資料館を創立した「小川和巳さん(故人)の想いが私たちに伝わって、長崎県を動かし、今こうして一回り

して戻って来た。今回それを小川さんの墓前に報告したい」と力を込めた。また、笠戸丸ともやすくんは長崎市立福田小学校コーラス部の皆さんからももらったメッセー

ジを披露した。12日に現地、サンタカタリーナ州ラーモス平和の鐘公園で「分灯セレモニー」が行われる。その後、ラーモス市が責任もって種火を保存して平和の火モニュメントを完成させ、長崎原爆投下の日である来年8月9日に点火式が行われる予定。